



コメント

### 南極観測船「しらせ」

全長138m 着工2007年3月15日 進水2008年4月16日

「しらせ」は文部科学省国立極地研究所の南極地域観測隊の輸送・研究任務のために建造されました。初代「しらせ」の後継艦として2009年に就役した二代目だそうです。

先日、海上自衛隊呉基地に「しらせ」がやってきました。砕氷艦を見たのは初めてでしたが、その姿は壮観でした。艦といえばグレー色が多い中、白とオレンジのコントラストがとて

も綺麗でした。

氷を割るための工夫がいろいろしてあり、氷の上に乗りに上げて自重で砕氷する方式に加え、海水を噴射したり、温水中で溶かすという新アイテムも搭載されており、3ノットで1.5mの氷を連続砕氷できる能力を持っているのだそうです。今まで艦には特別興味のなかった私でも感激でした。

とにかく恰好よかった!!

(H28.10.2 田熊)

## 社長の仕事 税理士 大場史郎

### 103万円の壁

日本が他の先進国と大きく異なるのは女性の社会進出の遅れである。労働者人口が不足する中で、女性を活用することは急務である。

女性が働きやすい環境作り、保育施設等の充実、利用料金の引き下げなどのハード面の充実、短時間労働、在宅勤務等の柔軟な勤務体系といったソフト面の改善が必要である。

その中で、女性の就労を妨げるものに冒頭の「103万円の壁」がある。ご存知のように女性が103万円を超えると夫の扶養から外れる。そのことが女性の労働の妨げになっているということは以前からいわれている。

そこで登場したのが配偶者控除を廃止する代わりに導入する方向で検討していた共働き世帯も対象とする「夫婦控除」の創設である。

女性が家庭に居ようが、働いていようが夫婦合算で一定額を控除する方法である。

しかし、2017年度税制改正を検討していた自民党税制調査会は「夫婦控除」の創設を協議時間不足として先送りすると決定した。

配偶者控除の廃止は、配偶者の年収が130万円を

超えると社会保険料の負担が生じる問題の見直しと合わせ、中長期的な検討課題としたのである。その代わりに103万円の壁を150万円に上げる。ただし所得が1000万円以下の人にも適用するようである。

背景にあるのは、12月プーチンロシア大統領の日本（山口県長門市、安倍首相の郷里）訪問で決定されるであろう北方領土の一部返還と見返りに行われる日本のロシアへの大幅な経済協力。それによる安倍内閣の人気上昇、その勢いに乗じて来年の1月に行われると予想される衆議院の解散総選挙を意識して、専業主婦に不人気の「夫婦控除」の創設を先送りしたのではないかと勘ぐられている。

社会制度の先進国であるフランスは夫婦合算で税金を計算する、合計した所得を家族数で割って計算するので、所得が高く、子供の多い世帯ほど有利になっている。少子化も見据えた、さらに先を行く制度になっている。女性の就労を本気で考えるなら、思い切ってこのような制度を考えるべきである。

女性が外で働かなかつたら、控除額が増える現制度、どことなく稲作を休んだら助成金がもらえる日本の農政に似ていませんか？